

第1回県営処分場エコグリーンとちぎ安全推進協議会

開催結果概要

- 1 開催日 令和5（2023）年6月30日（金）15時00分～16時30分
- 2 場所 馬頭総合福祉センター 研修室2（那珂川町）
- 3 議事 (1) エコグリーンとちぎの運営等について
(2) エコグリーンとちぎの情報発信について
(3) 北沢不法投棄物の撤去について
(4) その他

4 出席者

安全推進協議会委員

- (1) 那珂川町行政区長連絡協議会会長 鈴木 雄一（欠席）
- (2) 那珂川町和見行政区長 関 一夫
- (3) 那珂川町小口行政区長 大金 重晴
- (4) 那珂川町小砂行政区長 大金 勝男
- (5) 那珂川町議会教育民生常任委員会委員長 益子 明美
- (6) 一般財団法人日本環境衛生センター副理事長 藤吉 秀昭
- (7) 国立研究開発法人国立環境研究所福島地域協働研究拠点
廃棄物・資源循環研究室長 遠藤 和人
- (8) 栃木県環境森林部参事 野中 寿一
- (9) 那珂川町生活環境課長 杉本 篤

事務局(栃木県)

資源循環推進課長 大橋 禎恵
県営処分場整備室長 笠原 和樹
課長補佐(総括) 佐藤 正行
副主幹 吉成 友徳
係長 高橋 昌平
主査 志鳥 博一
主任 角田 里史

事務局(SPC)

(株)クリーンテックとちぎ

5 結果概要

- ・委員互選により藤吉委員を会長に選任した。
- ・資料に従い事務局から説明した後、以下の通り意見交換を行った。
- ・回答できなかった質問等については、後日、回答することとした。

委員からの御質問・御意見等	県(事務局)からの回答等
<p>(1) エコグリーンとちぎの運営等について(資料6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会委員に公募委員枠がないのはなぜか。 ・年1回の開催は少ないと思う。最低でも半年に1回は開催してほしい。検討願う。 ・協議会の議事録は県・町のHPで公開するのか。 ・p.14、16に受入れ基準があるが、廃プラなどに石綿が含まれる可能性がある。石綿がサンプルの分析項目に含まれていないように思われるが、石綿含有の調査は徹底いただきたい。 ・p.17の契約に盛り込む事項について、天蓋車の記載が無い。北沢の不法投棄物に関しては天蓋車による運搬を行うと、事前の住民説明会等でも説明されていたと思うが、天蓋車運搬に係る記載を契約の内容に盛り込んで欲しい。 ・搬入時間を環境保全協定第10条等で定めており、通学等への配慮をうたっている。小中学校の登下校、特に下校時の和見方面へのスクールバスが15～16時に、小砂方面及び中学校は16時に集中している。夏期・冬期など休みの際は、お昼の便もある。営業車両の通行にはこういったことも配慮いただき、適宜通行を避ける等対応を検討いただきたい。 ・p.21の廃棄物の外観ならびに放射能濃度は、すべての車両でカメラによる確認を行うのか。 ・p.24抜き取り検査は、事前に事業者に「この日に抜き取るよ」とお知らせするのか。そういうことの無いよう対応してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員を公募しなかった点については、他県の処分場における類似の協議会構成を参考とした。 ・開催回数は、御意見も踏まえ今後検討させていただく。 ・会議資料、結果については後日県ホームページにて公表する。 ・石綿含有廃棄物については、事前に確認を実施し、適切に対応する。 ・天蓋車については、使用するよう検討する。 ・搬入時間にかかる配慮については、環境保全協定において原則とうたっているものを遵守すべきと承知している。夏期・冬期休業時等についても、出来る限り配慮していきたい。 ・外観及び放射能濃度は全台数についてカメラ確認、計測器での確認を行う。 ・抜き取り検査については実施方法を確認し、後日報告する。

<ul style="list-style-type: none"> ・ p.29の浸出水処理の脱水汚泥は処分場内に戻すと理解しているが、その成分分析を実施し、分析結果を公表すべきと考える。 ・ 環境モニタリングに現在注目されているPFAS(有機フッ素化合物の総称)を追加すべき。 ・ 抜き取り検査は、委員の質問にもあったとおり、事前予告のない形での適切な抜き打ちチェックが重要。 ・ 今後、実際の業務に最も詳しくなるのは事業者になると思われる。安全推進協議会には、事業者も参加するのか。 ・ フローの役割分担は、どこまでが県でどこまでが事業者か。 ・ 住民目線で言うと、県の確認状況についても開示・説明してもらえると良いと思う。 ・ 作業環境に関する質問。p.6にあるガス感知システムとはどのようなシステムか。 ・ 覆蓋型の施設では熱中症が問題。熱中症の対策をどのように検討されているか。 ・ 埋め立てるもので、出てくるガスが変わってくると思う。作業環境の確保については留意されたい。 ・ p.27で、漏水検知システムの記載があった。もし漏水を確認した場合はどうなるのか。処分場は止めるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱水汚泥については受入基準に適合している必要性は当然あるため、確認ならびに公表方法について、検討し報告する。 ・ 現在のモニタリング項目は県が事前に行った環境アセス等を踏まえ整理しているが、PFASの測定追加については検討する。 ・ 今回の協議会も、運営・維持管理担当のクリーンテック、工事担当の熊谷組・クボタ環境エンジニアリングの事業者が同席している。今後の運営・維持管理期間中も、クリーンテックが同席することを想定している。 ・ 事業者がフローに基づく処理全般を行うが、県はそのフローに基づく処理状況を確認し、適宜書類チェックを行う。 ・ 作業開始前に場内の空気計測等を行い、作業環境の安全を確認したい。 ・ 熱中症対策についても今後対応していく。 ・ 被覆施設があるクローズド処分場なので、まず散水を停止し、浸出水が出なくなるようにする。漏水の状況を直接確認するため、漏水検知システムで検知した疑わしい場所まで掘削後、損傷か所を修復する作業工程を考えている。
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・修復がすむまでは、循環(利用)を停止するのか。 ・防災調整池については、浸出水とは直接関係ないのか。 ・以前、防災調整池の雨量計算は時間雨量80mmと聞いた記憶がある。それを超えるような雨が大量に降ったときは、本体からの影響は全く関係なく、あくまで雨水が集まって防災調整池に行き、そこから備中沢を通じ小口川へ流れて行くと理解すれば良いか。 <p>(2) エコグリーンとちぎの情報発信について(資料7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那珂川町においても、広報なかがわ、町HP、ケーブルテレビ等を活用し、これまで情報発信に努めてきた。 ・今後も、町民の不安をなくせるよう、適時適切な情報発信を、県と協力しながら実施して参る。 ・県営の処分場として、今後県民に向けた見学等もあるか。 ・日本環境衛生センターでも海外からの視察希望や、ウェブによる海外への処分場紹介等を行うなどしている。事例として、将来的には協力をお願い出来ればと思う。 <p>(3) 北沢不法投棄物の撤去について(資料8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.5の北沢の不法投棄の汚染状況について、現状を簡単に説明いただきたい。 ・PFASの追加を北沢の環境モニタリングについても検討いただきたい。 ・現状、県道那須黒羽茂木線の拡幅が全工程で出来とは思えない。9月の処分場稼働以降、北沢から不法投棄物が処分場に搬出される予定とのことだが、交通安全につい 	<ul style="list-style-type: none"> ・循環利用を停止する。浸出水処理はしているが、散水はしない。 ・防災調整池と浸出水は関連していない。 ・そのとおり。本処分場はクローズドなので、雨水は一切埋立地内に入らない。先日あったゲリラ豪雨などの際も、被覆施設内の廃棄物に影響が出るわけではないので、近年の天候状況等を考慮するとメリットと言えると思う。 ・これまで町民を主体に見学会を実施してきた。今後県民、さらには県外の方にも見学会を実施していきたい。 ・(協力について)検討する。 ・年複数回の調査を実施している。不法投棄地内の観測井では鉛の検出・環境基準超過の傾向は継続してみられる。下流の直下河川では基準超過はみられない。北沢不法投棄地内で汚染物質がとどまっているものと考えている。 ・PFASについては、持ち帰り検討したい。
---	--

<p>て、特に通学バス等の通行が多い箇所であるので、適切な配慮をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路拡幅の計画については、文書で回答を貰えると理解して良いか。 ・ 確かに、現地は狭い箇所がいくつかあった。道路事情を考慮し、今後継続して努力して欲しい。 ・ 具体的なアクション・県の努力の状況について、今後対外的にアウトプット出来ると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全運転については、適切な対応を検討して参る。 ・ 拡幅に関する今後の計画については、文書回答は難しいかと思うが、拡幅が出来るよう、要望に向かって努力をして参りたい。 ・ 県道の整備についても、所管部局と連携しながら進めて参りたい。
--	--

第1回安全推進協議会における委員からの意見への回答【追加回答分】

令和5(2023)年6月30日に開催した第1回安全推進協議会において、後日回答を行うこととした項目について回答をとりまとめましたので公表します。
 なお、協議会当日の質疑応答において、追加で回答を行うとしたものについては、当日の回答を上段に記載したうえで、追加分の回答を記載しました。

委員からの御質問・御意見等	県（事務局）からの回答等
年1回の開催は少ないと思う。最低でも半年に1回は開催して欲しい。検討願う。	会議については、必要に応じて開催することとしておりますので、今後、委員の皆様の御意見も伺いながら、決定させていただきます。
p.14、16に受入れ基準があるが、廃プラなどに石綿が含まれる可能性がある。石綿がサンプルの分析項目に含まれていないように思われるが、石綿含有の調査は徹底いただきたい。	石綿含有廃棄物については、事前に確認を実施し、適切に対応する。 【以下、追加回答】 石綿含有廃棄物については受入の対象となるが、資料では詳細な記載が漏れていたため、資料6 P.14を修正します。
p.17の契約に盛り込む事項について、天蓋車の記載が無い。北沢の不法投棄物に関しては天蓋車による運搬を行うと、事前の住民説明会等でも説明されていたと思うが、天蓋車運搬に係る記載を契約の内容に盛り込んで欲しい。	不法投棄物の運搬車両については、水密性の高い車両(天蓋車)を使用することとしていることから、その遵守状況を確認していきます。
搬入時間を環境保全協定第10条等で定めており、通学等への配慮をうたっている。小中学校の登下校、特に下校時の和見方面へのスクールバスが15～16時に、小砂方面及び中学校は16時に集中している。夏期・冬期など休みの際は、お昼の便もある。営業車両の通行にはこういったことも配慮いただき、適宜通行を避ける等対応を検討いただきたい。	搬入時間にかかる配慮については、環境保全協定において原則とうたっているものについては遵守すべきと承知している。夏期・冬期休業時等の配慮についても、出来る限り配慮していきたい。 【以下、追加回答】 搬入前に実施する安全管理講習会において、搬入時間、搬入ルート、交通ルールの遵守等について指導を徹底する。
p.24抜き取り検査は、事前に事業者「この日に抜き取るよ」とお知らせするのか。そういうことの無いよう対応してもらいたい。	抜き打ちで実施し、契約時と性状に変化が無いこと、受入基準に適合していることを確認する。
p.29の浸出水処理の脱水汚泥は処分場内に戻すと理解しているが、その成分分析を実施し、分析結果を公表すべきと考える。	浸出水処理に伴う脱水汚泥については定期的に成分分析を実施し、受入基準への適合状況を確認する。公表については今後検討する。
環境モニタリングに現在注目されているPFAS（有機フッ素化合物の総称）を追加すべき。	PFASについては、国等における法規制の状況等も踏まえながら、項目への追加について検討する。
住民目線で言うと、県の確認状況についても開示・説明してもらえると良いと思う。	県の確認状況については、委員の皆様の御意見も伺いながら報告させていただく。
PFASの追加を北沢の環境モニタリングについても検討いただきたい。	PFASについては、国等における法規制の状況等も踏まえながら、項目への追加について検討する。

Ⅲ 受入管理体制 受入基準

別紙 資料6 P.14

修正前

受入れ基準

埋立許可産業廃棄物の種類

燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん、廃棄物を処分するために処理したもの（法施行令第2条第13号廃棄物）

廃棄物の種類	基準
共通事項	<ul style="list-style-type: none">・原則として栃木県内で排出されたものであること・水や他の廃棄物と反応して引火、発火又は発熱するおそれのあるものでないこと・火気を帯びていないこと・放射能濃度が4,000Bq/kg以下であること・中空の状態でないこと・最大径が概ね50cm以下であること（ゴムくず、廃プラスチック、石綿含有産業廃棄物は除く）
燃え殻、汚泥、鋳さい、ばいじん、13号廃棄物	<ul style="list-style-type: none">・埋立処分に係る判定基準に適合すること（※1）・飛散防止措置を講ずること（燃え殻、鋳さい、ばいじん）・含水率が85%以下であること（汚泥）
がれき類、廃プラスチック類	<ul style="list-style-type: none">・鉄筋等の異物が除去されていること（がれき類）・廃石綿等（特別管理産業廃棄物である飛散性石綿廃棄物）を含まないこと（廃プラスチック類）

※1 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準

Ⅲ 受入管理体制 受入基準

別紙 資料6 P.14

修正後（下線部分）

受入れ基準

埋立許可産業廃棄物の種類

燃え殻(※1)、汚泥(※1、※2、※3)、
廃プラスチック類(※2、※3)、紙くず、
木くず、繊維くず、動植物性残さ、
ゴムくず、金属くず(※2)、
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(※2、※3)、
鋳さい(※1)、がれき類(※3)、ばいじん(※1)、
廃棄物を処分するために処理したもの
(施行令第2条第13号廃棄物)

※1 水銀含有ばいじん等を含む

※2 水銀使用製品産業廃棄物を含む

※3 石綿含有産業廃棄物を含む

廃棄物の種類	基準
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として栃木県内で排出されたものであること ・水や他の廃棄物と反応して引火、発火又は発熱するおそれのあるものでないこと ・火気を帯びていないこと ・放射能濃度が4,000Bq/kg以下であること ・中空の状態でないこと ・最大径が概ね50cm以下であること（ゴムくず、廃プラスチック、石綿含有産業廃棄物は除く）
燃え殻、汚泥、鋳さい、ばいじん、13号廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・埋立処分に係る判定基準に適合すること (※4) ・飛散防止措置を講ずること（燃え殻、鋳さい、ばいじん） ・含水率が85%以下であること（汚泥）
がれき類、廃プラスチック類	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋等の異物が除去されていること（がれき類） ・廃石綿等（特別管理産業廃棄物である飛散性石綿廃棄物）を含まないこと（廃プラスチック類）

※4 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準